



『ピクニック』Une partie de campagne



『緑の光線』Le Rayon vert



『私たちの好きな八月』Ce cher mois d'août



『夏の妹』Une petite sœur pour l'été

ヴァカンス映画特集 Filmer les vacances

『7月の物語』、『勇者たちの休息』が6月8日(土)～6月28日(金)にユーロスペースにて公開されるギヨーム・ブラックを迎え、傑作ドキュメンタリー『宝島』を日本初上映します。また同監督と共にセレクトした「ヴァカンス映画」の特集もお届けします。

夏は、異なる方法で映画を撮るよう導いてくれる。もっと自由に、もっと軽快に、より手作りの方法で撮るように。外で撮ることが多いので、照明はほとんど使わず、スタッフも限られた人数で、日中が長いので、ゆっくりと時間をかけることもでき、より気ままに自由に、遊び心を持って映画に取り組むことができる。それに思いがけない出来事に対してもより柔軟でいられる。例えば変化していく光や、突然響き渡る嵐にも。天気や光、人の群れ、夏は、現実がもたらすものにより臨機応変に対応することを可能にしてくれる。その意味で自ずとドキュメンタリー的なものとなり、生をとらえるのに適した季節だと言えるだろう。エリック・ロメールが撮る海辺のシーンがこれほど好きなものそうした理由からだろう。つまり夏の休暇に来ている人々に混じって俳優たちを見ることで、ほとんど気づかぬまま、その

周囲で続いている人々の生のたくさんの小さなディテールによってショットが豊かなものになっていくのだ。夏を、ヴァカンスを撮ること、それは、階級間の関係、労働の問題など社会的、政治的な現実に入っていくことでもあるが、余暇の時間であることで、そうした問題にもより何気ない方法でふれることになる。僕は数時間、あるいは数日の間に展開する物語、ほとんど上映時間と重なり合うような束の間の出会いが好きだ。そうしたささやかながら、深く心に残る、その後の人生に余波を残すような出来事を語る映画が好きなのだ。夏はそうした微妙な感情を描写するに打ってつけであり、今この時の歓喜、生き生きとした様子、あるいは、すでにそこにはないもの、すでに失われたものへのメランコリー、憂愁の中へと観客を深く導いてくれる。

— ギヨーム・ブラック

【上映作品】



宝島 *L'île au trésor* de Guillaume Brac

【フランス/2018年/97分/カラー/デジタル/フランス語・日本語字幕】

監督：ギヨーム・ブラック

バリ北西にあるレジャー・アイランドでのひと夏。ある者たちにとっては冒険、誘惑、ちょっとした危険を冒す場所。他の者たちにとっては避難、逃避の場所となっている。世界の喧騒とどこかで響き合いながら、この場所には有料の海水浴場もあれば、人目につかない片隅、あるいは子供たちが探求する王国もある。

「イル・ド・フランスのセルジー＝ポントワーズにあるこのレジャー・アイランドは僕の子供時代の一部を成しており、今日でもなお心に留めている鮮明な記憶と結びついている。僕たちはそこからあまり遠くないところに住んでいて、時々、両親に兄弟、姉妹たちと一緒に連れて行ってもらった場所だ。僕たちにとって週末のお出かけスポットだったのだ。それから随分経って、エリック・ロメールの『友だちの恋人』を発見し、自分にとって大切な映画の中で自分自身が過ごした場所を再び見出し、とても特別な感情を抱いた。突如としてこの場所がなんらかの神話的な趣、オーラを得たかのようであり、戻ってみたいと思った。最初に再訪したのは9月のある日曜日、とても天気のいい日で、歓び、生命力が感じられ、バーベキューの煙に陽光が射して、模様を作り、さまざまな文化で混ざり合った人々の群れが隣り合って存在していた。そうした光景に僕は魅惑されたとともに、とても感動した…」— ギヨーム・ブラック

ギヨーム・ブラック監督
『7月の物語』(併映『勇者たちの休息』)
2019年6月8日(土)よりユーロスペースにてヴァカンス・ロードショー！
また同劇場にてギヨーム・ブラック特集も開催。公式サイト：<https://contes-juillet.com/>

上映スケジュール Calendrier

6.7 (金)	15:30	日曜日の人々 <i>Les Hommes le dimanche</i> (73分) 上映後、ギヨーム・ブラックのティーチンあり Suivi d'une discussion avec Guillaume Brac
6.14 (金)	16:15	ぼくの伯父さんの休暇 <i>Les Vacances de monsieur Hulot</i> (114分)
6.15 (土)	14:00	新学期 <i>Rentrée des classes</i> (24分) ピクニック <i>Une partie de campagne</i> (40分)
6.16 (日)	12:30	私たちの好きな八月 <i>Ce cher mois d'août</i> (150分)
6.28 (金)	16:00	憂鬱な楽園 <i>Good-bye South, good-bye</i> (124分)
6.30 (日)	12:00	緑の光線 <i>Le Rayon vert</i> (94分)
7.4 (木)	17:00	新学期 <i>Rentrée des classes</i> (24分) ピクニック <i>Une partie de campagne</i> (40分)
7.5 (金)	16:30	緑の光線 <i>Le Rayon vert</i> (94分)
7.6 (土)	12:15	アデュー・フィリピーヌ <i>Adieu Philippine</i> (110分)
7.7 (日)	13:00	〈シネ・リセ〉 アデュー・フィリピーヌ <i>Adieu Philippine</i> (110分) *

7.11 (木)	16:00	夏物語 <i>Conte d'été</i> (120分)
7.12 (金)	17:00	湖の見知らぬ男 <i>L'inconnu du lac</i> (95分)
7.13 (土)	11:45	夏の妹 <i>Une petite sœur pour l'été</i> (96分)
7.14 (日)	11:30	警 <i>Kanzashi</i> (71分)

■ 一般：1200円 学生：800円 会員：500円 ■ 開場時間：15分前 ■ チケット販売時間：上映当日各回の30分前から上映開始10分後まで。チケット販売時間内には、当日すべての回のチケットをご購入いただけます。全席自由。整理番号順での入場とさせていただきます。また、上映開始10分後以降の入場は、他のお客さまへの迷惑となりますので、固くお断りいたします。*シネ・リセ 若者向けの映画講座は、20歳前後の方を対象とした講座です(料金：500円)

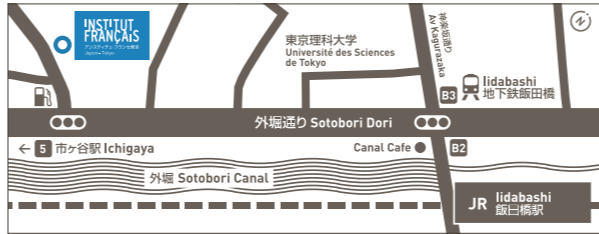
ヴァカンス映画特集

【主催】アンスティチュ・フランセ日本【助成】アンスティチュ・フランセパリ本部、ユニフランス【アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー】CNC、笹川日仏財団、TV5 MONDE【フィルム提供及び協力】国立映画アーカイブ、アウラ、ブロードウェイ、アダソニア、パシスフェール、アテネ・フランセ文化センター、クレスト・インターナショナル、エクステリアール・ニュー、フィルム・ドゥ・ロザンジュ、一般社団法人コミュニティネマセンター、東京ドイツ文化センター、マーメイド・フィルム、ミッド・フィルム、日活株式会社、大島プロダクション、プレイタイム、シエラック、松竹株式会社、ジャン・フランソワ・ステヴナン、ジャック・ロジエ、和エンタテインメント【特別協力】ユニフランス、ヴェッター公園

Filmer les vacances

organisé par l'Institut français du Japon ; avec le soutien de : Institut français, CNC, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE ; Remerciements à ADAN-SONIA Co., Ltd., l'Archive national du cinéma, Aura, Bathysphere, Centre culturel de l'Athénée français, Crest International, Extérieur nuit, Les Films du Losange, Goethe-Institut Tokyo, Mermaid Films, MID Film, Nikkatsu Corporation, Playtime, Shellac, Shochiku.Co., Ltd, Jean-François Stévenin, Jacques Rozier, Wa Entertainment, Inc., Unifrance, Vutter Kohen.

【会場・お問い合わせ】
アンスティチュ・フランセ東京(旧・東京日仏学院)
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15
Tel. 03-5206-2500 | Fax. 03-5206-2501
www.institutfrancais.jp/tokyo/



L'ÎLE AU TRÉSOR de GUILLAUME BRAC

Filmer les vacances

ヴァカンス映画特集

ゲスト Invités
ギヨーム・ブラック (映画監督) Guillaume Brac
ダミアン・マニヴェル (映画監督) Damien Manivel
〈シネ・リセ〉講師 Conférencier du Ciné-Lycée
須藤健太郎 Kentaro Sudoh

2019 TOKYO
6.7 金 7.14 日
du 7 juin au 14 juillet 2019
アンスティチュ・フランセ東京
エスパス・イマージュ
à l'Institut français du Japon - Tokyo



6.7 (金)・7.14 (日) du 7 juin au 14 juillet 2019

ヴァカンス映画特集 Filmer les vacances

Ammer

[上映作品]



©1941 松竹株式会社



©Les Films de Mon Oncle - Specta Films C.E.P.E.C.



日曜日の人々 ***Les Hommes le dimanche*** de Robert Siodmak et Edgar George Ulmer

[ドイツ/1930年/73分/モノクロ/デジタル/サイレント:日本語字幕]

監督:ロバート・シオドマク、エドガー・Q・ウルマー

出演:ブリジッド・ボルヒェルト、ヴォルフガング・ヴォン・ウォルター・ハウゼン

タクシー運転手とモデルの妻。レコード屋の店員、ワインの行商人、そして映画のエキストラ。5人の主人公たちの、ある日曜日の姿がドキュメンタリー・タッチで描かれる。活気に満ちたベルリンの街とそこに生きる人々の息づかいが生々しく伝わってくるヴァカンス映画の先駆けともいえる瑞々しさが印象的な傑作。ゴダールが“偉大なカメラマン”と絶賛したオイゲン・シュフタンの撮影は後のイタリア・ネオリアリズム、そしてヌーヴェルバーグの映像を彷彿とさせる。脚本にはリリー・ワイルダーが参加している。

ピクニック ***Une partie de campagne*** de Jean Renoir

[フランス/1936年/40分/モノクロ/デジタル/フランス語・日本語字幕]

監督:ジャン・ルノワール

出演:シルヴィア・パタイユ、ジャヌ・マルカン、アンドレ・ガブリエロ、ジョルジュ・サン＝サーンス

夏のある晴れた日。輝く太陽、匂い立つ草、穏やかな水面、結婚を控えた娘アンリエットは自然に導かれるように、現地で出会った青年アンリと結ばれる。「島でのラブシーン」は世界中の映画のなかでも最も残酷で最も美しい瞬間のひとつである。このシーンの閃光にも似た効果は感情面の悲痛なリアリズムを基調とするシルヴィア・パタイユの演技——視線といくつかの仕種——のたまものだが、そこで表現されているのは、愛の行為のあとの幻滅のすべて、あるいはむしろ荘重な哀しみである。」——アンドレ・バザン

簪 ***Kanzashi*** de Hiroshi Shimizu

[日本/1941年/70分/モノクロ/35mm/日本語・英語字幕]

監督:清水宏　出演:田中絹代、川崎弘三、斎藤達雄、笠智衆、坂本武

夏休みに山中の温泉宿、そこに逗留したまま部屋を隣り合わせた客たちの交流とささやかな騒動、そして簪がきっかけで生まれる淡い恋…。情緒を醸し出す魅惑の女に田中絹代、青年帰還兵に笠智衆、のちに日本を代表する名優たちがお互いにほのかな思いを寄せる男女を演じている。小津安二郎らと並び、戦前より松竹大船人情劇の基礎を築いた巨匠・清水宏監督による味わい深い人間ドラマ。戦中に撮られた作品にも関わらず、おほかたで心地よい笑いで全編に包み込まれた珠玉の傑作。

＊国立映画アーカイブ所蔵作品

ぼくの伯父さんの休暇 ***Les Vacances de monsieur Hulot*** de Jacques Tati

[フランス/1953年/114分/モノクロ/デジタル/フランス語・日本語字幕]

監督:ジャック・タチ

出演:ジャック・タチ、ナタリー・パスコー、アンドレ・デュボワ

プルトーニュ地方サン・マルク・シュル・メールの一軒の海辺のリゾートホテルに都会からのヴァカンス客がやってくる。バタバタと大きな音を立てて、ユロ氏のボンゴツ車も到着する。休暇を満喫しようとするユロ氏だが、彼が現われる所ではなぜだか次々と騒動が巻き起こる。チロ帽にパイプ、モゴモゴとしか話さない個性的なキャラクター、ジャック・タチの分身ムッシュ・ユロが誕生した記念碑的な映画。タチのその独創性は多くの映画人やミュージシャンに影響を与え、世界中の人々に熱狂的に愛され続けている。

新学期 ***Rentrée des classes*** de Jacques Rozier

[フランス/1956年/24分/モノクロ/デジタル/フランス語・英語字幕]

監督:ジャック・ロジエ

南仏の小さな村コランス。夏休みが終わり、新学期を迎えるのに、ルネは宿題をしていない。川にかばんを投げ、夏の美しい光ときらめく水を浴びて、やんちゃに野外授業を始めてしまう！ジャン・ルノワール『フレンチ・カンカン』の撮影に実習生として参加したジャック・ロジエが初監督した短編。ルノワールの『素晴らしき放浪者』、そしてロジエが敬愛するもう一人の監督、ジャン・ヴィゴの『新学期　操行ゼロ』へのオマージュとなる作品で、蟬の鳴き声や水しぶきの音とともにダリウス・ミヨールの音楽が詩情を与えている。



©1996 SHOCHIKU CO.,LTD

アデュー・フィリピーヌ ***Adieu Philippine*** de Jacques Rozier

[フランス/1962年/110分/モノクロ/35mm/フランス語・日本語字幕]

監督:ジャック・ロジエ

出演:ジャン＝クロード・エミニ、イヴリーヌ・セリ、ステファニア・サバティエニ、ヴィットリオ・カプリオーリ

1960年、アルジェリア戦争の兵役を数ヶ月後に控えたミシェルは、動機先のテレビ局でリリアヌとジュレットいうふたりの女の子と知り合う。二人の娘はミシェルに恋心を抱く。ミシェルは生中継中にヘマをしてしまい放送局を辞め、コルシカ島で早めのバカンスを楽しんでいた。そんな彼のところに、リリアヌとジュリエットがやってくる。双子のように仲良かったふたりの仲は、嫉妬が原因でざくざくし始めて…。永遠の青春映画と絶賛される、ロジエの長編処女作。

オルエットの方へ ***Du côté d'Orouët*** de Jacques Rozier

[フランス/1971年/161分/カラー/35mm/フランス語・日本語字幕]

監督:ジャック・ロジエ

出演:ダニエル・クロワジ、フランソワーズ・ゲガン、キャロリーヌ・カルティエ、ほか

晩夏の9月、キャロリーヌとジョエルとカリーンはロワール地方の大西洋の海辺の別荘へヴァカンスにでかける。女だけのつろいだ生活を楽しむところへ、かねてからジョエルに想いを寄せていた彼女の上司ジルベールが不意に押しかけてくる。魚料理にヨットに乗馬、幸福感に溢れた日々も過ぎゆく夏とともにやがて終わりを告げる。16mmで撮影され35mmにブローアップされたことで独特の色彩や粒子感が出ている。本特集で監督作『ミシュカ』を上映するジャン＝フランソワ・ステヴナンが助監督として参加している。

夏の妹 ***Une petite sœur pour l'été*** de Nagisa Oshima

[日本/1972年/96分/カラー/35mm/日本語・無字幕]

監督:大島渚

出演:栗田ひろみ、リリア、石橋正次、小松方正、小山明子、佐藤慶

東京の高校生、素直子は夏休みに沖縄を訪れる。自分の腹違いの兄かもしれない鷓男なる青年から手紙を受け取り、一度会いたかったからだ。そして素直子の父、浩佑もまた旧友の国吉に会いに那覇に。複雑な人間関係の底に横たわる日本と沖縄の戦中・戦後史を貫く彼らの愛憎と怨念が激しく葛藤する。返還直後の沖縄を舞台にオールロケで製作。「夏の妹」は青春映画であり、観光映画であり、そしてすぐれたメロドラマなのである。」——大島渚

緑の光線 ***Le Rayon vert*** d'Eric Rohmer

[フランス/1986年/94分/カラー/デジタル/フランス語・日本語字幕]

監督:エリック・ロメール

出演:マリ－リヴィエール、リサ・エレディア、ヴァンサン・ゴーティエ、ベアトリス・ロマン

デルフィーズは、ヴァカンスをギリシャで共に過ごす約束していた女友達からキャンセルされ途方に暮れる。別の友達がシェルブールに誘ってくれるも、ひとり海ばかり見つめている。8月に入り山にかけた彼女は、その後、再びビアリッツの海へ。そこで、彼女は、ジュール・ヴェルヌの『緑の光線』の話を目にする。ひたすら愛の訪れを信じて夏の光で彩られたフランスを北から南、東から西へと彷徨うデルフィーズが最後に出会う奇跡とは…。1986年ヴェネチア国際映画祭グランプリ受賞。

夏物語 ***Conte d'été*** d'Eric Rohmer

[フランス/1996年/120分/35ミリ/カラー/フランス語・日本語字幕]

監督:エリック・ロメール

出演:メルヴィル・ブポ、アマンダ・ラングレ

大西洋に面した美しい避暑地ディナールでひとり恋人を待つガスパール。彼はクレパー専門店でウェイトレスをしているマルゴと出会い、デートを重ねるが、ソレールという女性にも惹かれていく。ガスパールは恋人レナと落ちてってウェッサン島に旅行するはずなのに、約束の日から一週間経っても彼女はやってこない…。ブルゴニユの港町、白い砂浜、海の上、三人の女性の間を右往左往するガスパールによって、ロメールならではのショット内にある男女の豊かな演出のヴァリエーションが見えてくる。

憂鬱な楽園 ***Goodbye South, Goodbye*** de Hou Hsiao-hsien

[台湾＝日本/1996年/124分/カラー/35mm/台湾語・日本語字幕]

監督:ホウ・シャオシエン

出演:ガオ・ジェ (高捷)、リン・チャン (林強)、伊能静、シュウ・グイイン

40歳も間近だというのにその日暮らしを続けている台湾のチンビラ・ガオ。弟分のビエンはトラブルを起こしてばかりで、彼とその恋人・マーホアの2人がガオの頭を悩ませていた。そんなガオにも外国で一旗揚げたいという夢があったが…。現場での即興、名が回しを多く取り入れ自在に撮りあげ、そこに台湾のカリスマ的ロック・ミュージシャンでもあるリン・チャンによる斬新な音楽が見事に融合した台湾ニューシネマ名匠ホウ・シャオシエン監督による青春ロードムービーの傑作。



ミシュカ ***Mischka*** de Jean-François Stévenin

[フランス/2002年/117分/カラー/35ミリ/フランス語・日本語字幕]

監督:ジャン＝フランソワ・ステヴナン

出演:ジャン＝ポール・ルシヨン、ジャン＝フランソワ・ステヴナン、サロメ・ステヴナン、ジョニー・アリディ

夏のヴァカンスが始まる頃、高速のサービスエリアでバスローブにスリッパの老人が家族に置き去りにされていた。ホスピスで老人を迎えた看護人のジェジェヌは彼を“ミシュカ”(クマちゃん)と呼び、5年間、音信不通の娘を遺書に訪ねる旅に連れ出す。そこに、幼い弟レオや家出娘ジャンヌ、ジブシー、ロックのミュージシャン、ジョリ＝クールが加わり、5人は海に向かって旅を続ける。トリュフォー、ゴダールやリヴェットの助監督、俳優としても有名なステヴナンの3本目の監督作品。＊国立映画アーカイブ所蔵作品

私たちの好きな八月 ***Ce cher mois d'août*** de Miguel Gomes

[ポルトガル/2008年/150分/カラー/35mm/ポルトガル語・日本語字幕]

監督:ミゲル・ゴメス

出演:ソニア・パンデイラ、ファビオ・オリヴェイラ、ジョアオン・カルヴァリョ

ヴァカンス期のポルトガル山間部の村を舞台に、村人たちが映画の撮影隊、音楽フェスティバルの様子をドキュメンタリー的に描く前半部が、やがていつの間にか、途切れることなく、美しい青年と少女のメロドラマを綴る後半部へと移行する。真夏の夜の夢のようなポルトガルの俊英ミゲル・ゴメス監督の脱ジャンルの秀作。カンヌ国際映画祭監督週間上映されて話題を呼んだ。＊フィルム提供:一般社団法人コミュニティシネマセンター

犬を連れた女 ***La Dame au chien*** de Damien Manivel

[フランス/2010年/16分/カラー/デジタル/フランス語・日本語字幕]

監督:ダミアン・マニヴェル、エルザ・ウォリアストン　出演:レミ・タファネル

うだるような暑さの夏の午後、プールでひと泳ぎしたレミ(レミ・タファネル)は、その帰り道で迷い犬を発見する。彼はどうにか飼い主を見つけ出して、無事に送り届ける。レミは玄関先に出て来た少々酔いの回った体格のいい黒人女性に、家へ上がっていくように言われ…。フランスの新鋭ダミアン・マニヴェルが『若き詩人』でも再びコンビを組むことになるレミ・タファネルを主人公に、青年のある午後の体験を切り取った瑞々しく、官能的な短編。『キングス&クイーン』でカルト的精神分析家を演じたエルザ・ウォリアストンが共演している。

湖の見知らぬ男 ***L'Inconnu du lac*** d'Alain Cuiraudie

[フランス/2013年/95分/カラー/デジタル/フランス語・日本語字幕]

監督:アラン・キロディー　出演:ビエール・ドイラドンシャン、クリストフ・パウ、パトリック・ダスマサオ、ジェローム・シャバット、マチュー・ヴェルヴィッシュ

ある夏、湖のほとりに隠れた男たちのハッペン場で、フランクは、ミシェルに恋をした。美しく、力強く、危険なミシェル。ある殺人事件を目撃してしまったフランク。その事件にミシェルがかかわっているのでは、という疑問を持ちながらも、彼への情熱を生きようとするが…。2013年カンヌ国際映画祭「ある視点」部門で上映され、絶賛され、世界的にも高い評価を得ている鬼才アラン・ギロディーの長篇4作目。その年の「カイエ・デュ・シネマ」ベストワンにも選ばれる。

ほとりの朔子 ***Au revoir l'été*** de Koji Fukada

[日本/2013年/125分/デジタル/カラー/日本語・英語字幕]

監督:深田晃司

出演:二階堂ふみ、鶴田真由、太賀、古館寛治、大竹直

大学受験に失敗し、現実逃避中の朔子は美しい叔母・海希江の誘いで、旅行で留守にするというもうひとりの伯母・水帆の家で、夏の終わりの2週間を過ごすることに。朔子は海希江の古馴染の兎吉や娘の辰子、そして甥の孝史と知り合う。小さな街の川辺や海や帰り道で会い、語り合ううち朔子と孝史の距離が縮まっていく。そんな朔子の小さなときめきをよそに、大人たちは微妙にもつれた人間模様を繰り広げる。フランスでも第35回ナント三大陸映画祭では、グランプリにあたる「金の気球賞」と「若い審査員賞」をダブル受賞。

若き詩人 ***Un jeune poète*** de Damien Manivel

[フランス/2014年/71分/カラー/デジタル/フランス語・日本語字幕]

監督:ダミアン・マニヴェル

出演:レミ・タファネル、エンソ・ヴァッサーロ、レオノール・フェルナンデス、クリストフ・カバレロ、

思春期を抜け出たばかりの青年レミは、世界を感動させる詩人になりたいと思っていた。アイディアを探して海辺の街へやって来たものの、何から手をつければいいのか分からない。ペンとノートを携え、海を眺めて考えてみたり、山に登って鳥の声を聞いてみたり、彼だけの「詩の女神」を探してみたり…。レミは詩作を通して、何かと向き合おうとめがく。2014年ロカルノ映画祭特別大賞受賞をはじめ、各国の映画祭で受賞。「本作では、あの街とレミ、太陽の光、そして、風を撮りたかった。」——ダミアン・マニヴェル